

第 1 5 回天台声明を聴く会

- ・日時 令和 7 年 5 月 18 日（日）午後 5 時開式
- ・場所 桃山善光寺 雨宝山 龍雲寺本堂
- ・住所 京都市伏見区桃山毛利長門東町 3 7
- ・電話 0 7 5 - 6 1 1 - 4 8 5 4
- ・最寄り駅からのアクセス

J R奈良線 桃山駅から 10 分

京阪本線 伏見桃山駅から 20 分

近鉄京都線 桃山御陵前駅から 20 分

駐車場はございません。公共交通機関を利用してお越しください。

京都魚山声明研究会差定（配役）

導師	松林院	須 川 實 治
式文人道	歓喜院	信 樂 香 爾
八句念佛甲様	法輪院	本 郷 泉 観
八句念佛乙様	戒光院	高 山 良 彦
式文修羅道	恵雲院	清 原 徹 雄
式文餓鬼道	東陽院	齋 藤 良 成
引聲乙念佛	龍雲寺	本 多 寂 信
引聲甲念佛	寶藏寺	黒 崎 寂 深
十二礼・四奉請	二尊院	羽生田光昭

天台声明を聴く会（大原 勝林院第 2 0 + 伏見桃山 龍雲寺第 1 5 = 第 3 5 開催）ご挨拶

私の中学の、担任の先生であった天納傳中先生（当時叡山学院学監）の研究課題「声明」を聴かせて欲しいとお願いしたことから、昭和 62 年 4 月（1 9 8 7）に、先生とお弟子さんたち「大原魚山声明研究会」と、私たち「天台声明を聴く会（傳中先生命名）」との両輪にて、大原勝林院本堂で声明の習礼風景として第 1 回の声明公演が歴史的意義の上に開催されました。それは仏教儀式の中にしかなかった「声明」を一般の人たちが視聴できる第一歩でした。その後第 20 回まで毎年同院本堂で開催する中で、年ごとに「声明」の認知度が高まるとともにファンも増えてまいりました。

残念な事ながら、先生そして声明後継者の久和師が相續いて逝去され、大原勝林院本堂での継続開催は諦めざるを得なくなりました。

そんな中、新たな出会いが、この伏見の地で先生のご意思を継承され「京都魚山声明研究会」として本年で第 15 回目を迎えられることを心よりお喜び申し上げます。

代 表 田村佐起三

サポーター「天台声明を聴く会」（ボランティア護持者）

京都魚山声明研究会

第 1 5 回天台声明を聴く会（通算第 3 5 回）

令和 7 年 5 月 1 8 日（日）

午後 5 時開式

（於）桃山善光寺 雨宝山 龍雲寺本堂

本日は、「天台声明を聴く会」にお越しいたゞき、誠にありがとうございます。今回お唱えする『六道講式』（『二十五三昧式』）についてご紹介いたします。

『六道講式』は、『源氏物語』の「宇治十帖」に登場する「横川の僧都」のモデルとされる平安時代の天台宗の高僧、恵心僧都源信（942-1017）によって編纂された仏教儀礼であり、数ある「講式」のなかで最も早く作られたものです。声明の多くが漢文か梵文に旋律を譜したものであるなか、「講式」は日本語による声明曲であり、『六道講式』以降これに倣い江戸時代まで多種多様なものが作られました。源信は、仏教の教えを広く人々に伝えるために、漢文で記された經典の教えをそのまま読誦するのではなく、一般の人びともにも理解しやすい形に改め、日本語による「語り」で仏法を説きました。「講式」は、この日本語の「語り」に講式節という独特の声明の旋律を加え、仏、菩薩、祖師などの徳を讃えて、仏の教えを平たく語るなど、旋律よりもその内容を説き聴かせる「語り」に重点を置いています。この講式のスタイルは、平曲や謡曲などの「語りもの」の音楽の源流になったともいわれています。

『六道講式』は、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天という仏教の世界観と、その世界での輪廻思想に基づく六つの世界（六道）の苦しみと、これを超越するための懺悔を、「講式節」という独特の声明の節を譜して語りでもって表現し、そして参加者一同による念仏を勧め、阿弥陀仏の願力により極楽浄土への往生を願うものです。その内容は日本の浄土教に多大な影響を与えた源信の主著『往生要集』の影響を色濃く受け、986 年に比叡山の横川で結成された念仏結社「二十五三昧会」の儀式に関係しています。この結社では、25 人の僧侶が毎月 15 日に集まり、念仏を行い極楽往生を願いました。ここでは、善友の契りを結び、臨終の際には互いに助け合って念仏を唱えることが重視されました。

本日お唱えする『六道講式』の中心となる「式文」は、時間の関係上「餓鬼道」、「修羅道」、「人道」の三つの「式文」のみのお唱えとなりますが、苦しみの六道を離れ、浄土に往生することを願うその内容と、「講式節の語り」に耳を傾けて下さい。また本日のお念仏は通常の法要等ではあまりお唱えされることのない「甲様」と「乙様」の 2 種類の「引声念仏」と「八句念仏」をお唱えします。また諸仏諸菩薩をこの会場にお迎えする「四奉請」は「声明例時」の時に用いるものをお唱えします。また、阿弥陀仏への帰依と西方極楽 浄土への往生を願い礼拝を行いながらお唱えする「十二礼」の華やかな調べの声明もお唱えします。

『六道講式』は、単なる仏教儀式にとどまらず、日本の伝統音楽である邦楽の源流ともいえる存在です。「講式」の「語りの調べ」は、後の日本の音楽文化に深く影響を与えたとされます。また、『六道講式』は日本の唱導文芸の発展にも寄与した重要な存在です。平安時代以降、仏法を広めるための手法として「講式」は「語りと調べ」を発展させ、その後の説教節や能楽などの「語りもの」にも影響を与えました。本日お唱えする声明の語りと調べに耳を傾けて声明という仏教音楽に親しんで頂ければ幸いです。

合 掌